

## 施工 演習3

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

---

### ウラ模試 1

[No.11] コンクリート工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 調合管理強度  $27\text{N/mm}^2$ 、スランプ  $21\text{cm}$  と指定された高性能 AE 減水剤を使用したコンクリートにおいて、現場受入れ時のスランプ試験の結果が  $18.5\text{cm}$  であったので、合格とした。
2. 同一区画の打込み継続中における打重ね時間の限度については、外気温が  $25^\circ\text{C}$  未満の場合、原則として、 $150$  分とする。
3. 高強度コンクリートの計画調合における品質及び施工性の確認については、「実機プラントを用いた試し練り」及び「施工試験」により行った。
4. H 形鋼を用いた鉄骨鉄筋コンクリートの梁へのコンクリートの打込みについては、フランジの下端が空洞とならないように、フランジの片側からコンクリートを流し込み、反対側にコンクリートが上昇するのを確認した後、両側から打ち込むこととした。

### ウラ模試 2

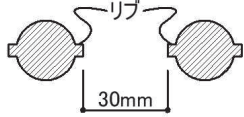
[No.10] 表は、コンクリートの計画調合において使用する材料の絶対容積及び質量を記号で表したものである。この表の材料を使用したコンクリートに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。ただし、細骨材及び粗骨材は、表面乾燥飽水状態とする。

絶対容積 ( $\text{l/m}^3$ )				質量 ( $\text{kg/m}^3$ )			
水	セメント	細骨材	粗骨材	水	セメント	細骨材	粗骨材
A	B	C	D	E	F	G	H

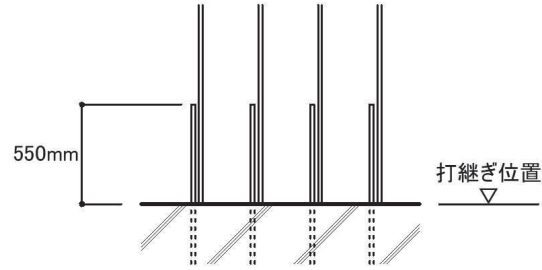
1. 水セメント比(%)は、 $\frac{E}{F} \times 100$  である。
2. 細骨材率(%)は、 $\frac{G}{G+H} \times 100$  である。
3. 空気量(%)は、 $\frac{1,000 - (A+B+C+D)}{1,000} \times 100$  である。
4. フレッシュコンクリートの単位容積質量 ( $\text{t/m}^3$ ) は、 $\frac{E+F+G+H}{1,000}$  である。

## ウラ模試 1

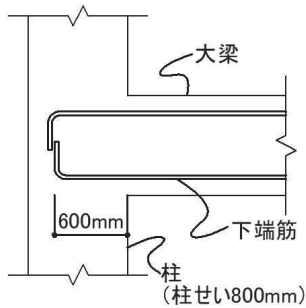
[No.9] 図に示す鉄筋工事に関する寸法について、**最も不適当な**ものは、次のうちどれか。ただし、鉄筋はSD345、コンクリートの設計基準強度は $24\text{N/mm}^2$ とし、コンクリートの粗骨材の最大寸法は $20\text{mm}$ とする。



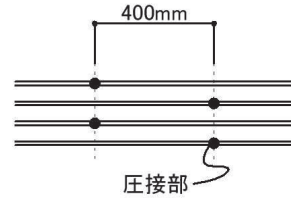
1. 鉄筋 (D19) のあき



2. 地上の耐力壁の鉄筋 (D13) の継手長さ



3. 大梁の下端筋 (D32) の柱内折曲げ定着の投影定着長さ



4. 鉄筋 (D25) のガス圧接継手の位置

## ウラ模試 2

[No.8] 鉄筋工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. スラブの配筋において、特記がなかったので、上端筋、下端筋それぞれにスペーサーを端部以外は $0.9\text{m}$ 間隔で配置した。
2. 設計図書に特記がない場合、大梁に $90^\circ$ フック付き定着とする小梁の主筋(上端筋)については、大梁のせい小さく、そのフック部を鉛直下向きに配筋すると定着長さが確保できないので、斜め定着とした。
3. 先端にコンクリート手すりが乗る片持ちスラブ上端筋の先端は、 $90^\circ$ 曲げとし、余長を $4d$ とした。
4. T形梁のあばら筋をU字形とする場合、上部のキャップタイの末端部は $90^\circ$ 曲げとし、余長を $6d$ とした。